



「ひのきの里」上松町は、長野県西部に位置し、町の東部には木曾山脈の木曾駒ヶ岳、木曾川を挟んで西部には阿寺山地が広がります。良質な木材として知られる木曾ヒノキは古くから神社仏閣建築に重用され、木曾ヒノキなどの木材を扱う商人達の町として栄えてきました。今回のご当地自慢は大相撲で活躍中の御嶽海関の出身地でもある「ひのきの里上松町」の見所を紹介します。



赤沢自然休養林を走る森林鉄道

◆**姫淵**
平安時代、平氏打倒を決意した以仁王（後白河天皇の第三皇子）は、京都での戦いに敗れ東国の山奥へ逃れた。それを聞いた娘の姫宮は父（似仁王）の後を追った。道中の上松で平氏に落人と見破られ、襲撃を逃れた姫宮は麻畑に身を隠

したが、土地の民は姫宮をかくまったことによつて自分たちにも被害が及ぶことを恐れ、やむなく姫宮を追い返してしまった。姫宮は平氏から逃れるため山奥まで逃れてくると、水量が多くとても渡れそうにない川にたどり着いたが、持っていた麝香袋の匂いで追っ手に見つかってしまう。もう逃げ切れないと悟った姫宮は、逃げてくる途中で見た田園風景を思い出しつつ、里の娘達が唄っていた田植え歌を見よう見まねで唄い、その美しい声のこだまが消えないうちに、自ら深い淵に身を投げた。以来、その淵は姫淵と呼ばれるようになった」との悲しい伝説が残っています。

◆**寝覚の床**
木曾川の流れが花崗岩を削つてできた自然地形で、巨大な白い岩肌とエメラルドグリーン川のコントラストが見事です。また、浦島太郎がこの場所を気に入って住み着いたとの伝説も残っています。絶好の写真スポットですので、



姫淵（上松町官観光協会提供）



寝覚の床（晩秋）

ぜひ足を運んでみてください。

◆**木曾路美術館**

木曾唯一の美術館で、歌川広重と渓斎英泉の合作による「木曾街道六拾九次」等、木曾に関係する浮世絵、地元の作家の彫刻や絵画や陶磁器など、日本的な作品を展示しています。美術館入り口の右側には、二〇一六年九月に観光拠点「ねざめ亭」が開設されました。レストランや寝覚の床を一望できるペランダ、木曾の特産品販売コーナー（木曾ヒノキの風呂桶も）がありますので、ぜひお立ち寄りください。



木曾路美術館入り口



「寝覚の床」撮影スポット（ねざめ亭）



木曾ヒノキの風呂桶

◆**木曾の棧**

中山道一の難所といわれた場所、木曾川の絶壁に差し込んだ丸太の上に板を組み、藤づる等で結わえた棧道であったそうです。木でできていたため、一六四七年、通行人の松明で燃え落ちてしまったことから、尾張藩が石垣と三つの木橋を完成させ、その後、江戸時代中期（一七四一年）と明治十三年（一八八〇年）の改修で木橋下の空間はすべて石垣となりました。一九一一年に旧国鉄中央線工事のため木橋も取り除かれ石垣のみとなり、一九六六年の国道改修工事に伴い、県の史跡として石垣の一部が保存されました。現在も旧国道十九号線の下に昔の姿を残しています。



現存する旧国道下に残る石垣（木曾の棧）

○**寝覚の床へのアクセス**

- ・公共交通機関
 - JR中央線上松駅からバスで五分（下車徒歩十分程度）
- ・自動車
 - 中央道中津川ICから車で六十分、中央道塩尻ICからで七十分